

## コロナ禍における学内での手術室見学代替演習に実技演習を取り入れた 取りくみについて

小林匡美<sup>1)</sup>\*・井上弘子<sup>1)</sup>・宮武一江<sup>1)</sup>・磯本暁子<sup>1)</sup>

1) 新見公立大学健康科学部看護学科

(2021年12月1日受付、12月22日受理)

新型コロナウイルス感染症に対応した実習形態により、2020年度に引き続き、2021年度も臨地での実習が困難となり学内演習への切り替えや臨地実習期間の短縮となった。臨地実習が可能な場合でも、手術室見学実習については施設の判断により中止となることが多く手術室見学実習が実施できない状況であった。そのため学内にて手術室見学代替演習を行った。2020年度の代替演習は講義のみとしたが、2021年度は実技演習を取り入れ実施した。実技演習を実施することで、よりイメージを持たせることができ、手術室看護業務について学ぶことができた。しかし、手術室の緊張感や緊迫感、多職種連携について具体的に感じる事が難しく、その点が課題となった。今後実習施設への協力を仰ぎ、リモートでの手術室見学や多職種専門職からの講話などを検討することとした。学生の看護実践能力の向上、質の高い教育、教育内容の向上を目指し取り組んでいきたい。

(キーワード) 手術室見学実習、成人看護学実習、手術室看護、学内代替演習、コロナ禍

### はじめに

新型コロナウイルス感染症は2020年1月から世界的に拡大し、現在も感染者数の増減の波を繰り返している。2020年度に引き続き、2021年度も緊急事態宣言が発令されるなど、臨地での実習が困難となることもあり、学内での代替演習への切り替えや、臨地実習の期間を短縮し学内演習にて補うなど、コロナ禍のなか、実習の工夫を考え対応してきた。

しかし、成人看護学実習に組み込まれている手術室見学実習は、臨地実習に行けた場合でも、感染対策上、臨地実習施設の判断により中止となることが多い現状であった。しかし手術室見学実習により、人のいのちの重みとそれを守る医療者の責任を真摯に感じ取る<sup>1)</sup>。また、学生のより実践的な学びや広い視野の育成につなげることができる可能性がある<sup>2)</sup>。という報告がある。そのため実習内容の充実を考慮し、学内での代替演習により、手術室看護について学ぶ機会を持つこととした。

2020年度から学内代替演習のなかで、手術室見学代替演習を行っている。演習の内容は手術室看護師の経験がある教員が、手術室看護師の役割や患者への配慮についての講義、視覚的なイメージを与える目的にて、手術準備や術中の動画視聴を行い代替演習としていた。しかし、学生からは手術室看護の業務内容については理解できたが、実際にどのように業務が行われているのかを見てみたいといった意見、直接看護師が行う感染対策や清潔不潔のイメージ

がつきにくいという意見も聞かれた。

そこで、2021年度より、手術室見学代替演習に実技演習を取り入れ、実際に看護師が手術室で行う手術室看護業務の実践を、演習内容に追加した。手術室看護の実技演習については、今回初めて行った取り組みであり、今後の教育内容の充実のため、その内容について報告する。

### 1. 手術室見学実習の位置づけ

手術室見学実習は、成人看護学実習Bの急性期看護学実習に組み込まれている。

成人看護学実習Bの概要としては、履修期間は急性期看護学実習135時間・統合実習(看護管理)45時間、通常は臨地実習での実習時間は6時間/日、5日/週(月～木曜日：臨地、金曜日/学内)、4週間とし自己学習による学習時間も合わせた構成となっている。

手術室見学実習は成人看護学実習B(急性期)の実習期間である3週間の中に、臨地実習施設と受け持ち患者からの許可が得られれば、受け持ち患者の手術見学を実施している。受け持ち患者の手術見学により手術室看護について学ぶ機会をもち、どのように患者が手術を受けているのか、またその場面において手術室看護師はどのような看護を行っているのか、そして手術室における多職種連携なども学ぶ機会としている。

\*連絡先：小林匡美 新見公立大学健康科学部看護学科 718-8585 新見市西方1263-2

## II. 2021年度の成人看護学実習B実施計画

通常のカリキュラムであれば、履修期間は3年次の11月から4年次の7月までの間に、4週間の病院実習（前半の3週間は急性期看護学実習、4週目を統合実習）としている。急性期看護学実習期間に周手術期の患者を受け持ち看護過程の展開を行っている。

しかし、2021年度も2020年度に引き続き、コロナ感染症の感染状況を考え、学内演習も取り入れた実習内容を計画した。学内代替演習（1週間）＋臨地実習3週間、または緊急事態宣言時は学内代替演習のみという実習形態をとった。

## III. 成人看護学実習B（急性期）における目的・目標

急性期回復期にある成人を理解し、急激な変化が生じる状況におかれた患者の日常生活を整えるための基礎的能力を養う、健康上の諸問題をもつ患者の看護実践を通して、看護過程展開の能力と態度を養う、学習の体験を洞察し自己の価値観、看護観を深めることを目的としている。

また、手術室見学実習に関係する実習目標としては、周手術期に行われる特徴的な術前検査をふまえて手術侵襲を予測し、患者が最良の状態です術が受けられるための援助が実践できる、生命が脅かされている場合の、生命維持、回復のための援助を理解し実践できる、患者の置かれている状況を総合的にとらえ、手術等の治療によって変化した日常生活行動への援助が理解できるとしている。

手術室見学により、これらの目的や目標のうち、生命が脅かされている場合の生命維持、回復のための援助の理解や、手術等の治療によってどのような変化が患者に起きるのかを考える場とすることができる。

## IV. 手術室見学代替演習の内容

### 1. 感染対策

学内における、感染対策方法に則り（資料1）感染対策を行い実施した。

### 2. 対象学生

4年生前期に4～7月に臨地にて急性期看護学実習を行う学生48名。

### 3. 手術室見学代替演習の実施時間

1週目の学内代替実習期間中に1日（6時間）実施する。

### 4. 実施計画

#### 1限目：手術室看護に関する動画視聴

手術室看護師経験のある教員より動画についての講義・補足説明

#### 2限目：直接看護師・間接看護師の具体的な役割についての講義と動画視聴

#### 3・4限目：手術室看護実技演習（ミニ手術室体験）

### 5. 記録の提出

実習後に、見学実習記録へ演習により学んだことを振りかえり、記録の提出をおこなう。

### 6. 実際の演習内容

1) 手術室に関する動画視聴、手術室看護師経験のある教員より動画についての講義・補足説明

動画では病棟から手術室入室までの経過、手術室へ入室してから麻酔がかかるまで、麻酔からの覚醒からICUへの移動について視聴した。そして一連の流れの中で、手術室ではチーム医療を行っており、手術を受ける一人ひとりの患者へ多職種が連携し、安全な手術を行うために協力していることを説明した。

また麻酔に関するイメージを持ちやすくするために、全身麻酔、脊髄クモ膜下麻酔、硬膜外麻酔に関する動画も視聴し、麻酔がかかる場面を視聴した。その後、手術室看護師経験のある教員により、動画に関する補足事項として講義を行った。

病棟から手術室までの患者の経過については、まず、手術室看護師による術前訪問について講義を行った。手術室看護師が術前に病室に出向くこと、そこでの患者さんに対する説明内容（情報収集の内容、手術への同意についての確認、手術室への入室の仕方、麻酔導入・覚醒について、終了時の諸注意）、不安への援助について、説明した。実際の患者への対応や患者の反応、手術を控えた患者はどのような不安を訴えるかなどを、経験を取り入れ説明することで、学生がイメージを持ちやすくするよう工夫した。

チーム医療に関しては一つの手術を実施するにあたり、関わる職種は医師や看護師だけではなく、術前から術後まで多職種が関わっており、例えば、術前には薬剤師、理学療法士、術中には臨床工学技士、放射線技師、術後には栄養士や社会福祉士など様々な職種が患者の手術を支えていること、そしてそういった多職種との連携をコーディネートすることも手術室看護師の業務内容の一つであるということを説明した。

手術室入室から麻酔がかかるまででは、導入時の看護師の動きや声掛けを動画により、看護師がどういった援助を行っているのかを視聴した。麻酔覚醒からICUへの移動についても同様に動画視聴により手術室看護師からICU看護師への引継ぎの内容や業務について説明を行った。

2) 直接介助看護師・間接介助看護師の具体的な役割についての講義と動画視聴

次に、手術室看護師の役割について、直接介助看護師（医師に器械を直接渡す役割の看護師）・間接介助看護師（医師や直接介助看護師の補助、記録、手術環境の調節、など手術がスムーズに行われるよう援助する看護師）に分け、講義により説明した。

直接介助看護師の役割として①手術時手洗い②ガウン

表 1. 手術室看護師業務についての講義内容（直接介助看護師業務）

講義項目	講義の内容
① 手術時手洗い	スタンダードプリコーションについて、洗浄・消毒・滅菌の違いについて、手術時手洗いの方法についての講義を行った。講義により手術室看護師がどのように清潔を保ち、清潔と不潔を区別しているのかを説明した
② ガウンテクニック	ガウンテクニックの方法について説明を行い、滅菌ガウン着方と介助者の注意事項を説明し、滅菌ガウンにも不潔な部分があるということを理解してもらい、理解をしたうえで看護師は業務を行っているということを説明した
③ 滅菌手袋の装着	オープン法とクローズド法について説明した
④ 器械・医療材料の準備、機械台の展開	直接看護師だけでなく間接介助看護師と一緒に準備・展開し、器械・医療材料を確認し安全な手術を心掛けていることを伝えた
⑤ 器械の使用前点検	安全に確実な手術を行うために前もって器械の破損や不具合がないか必ず確認することも看護業務であることを説明した
⑥ 器械出し業務	手術器械の取り扱い方法（滅菌期限の確認、科学的インジケーターについて）について説明し、滅菌状態の保証の確認を行うこと、体内遺残の防止、危険物（針やメスなど）の術中での取り扱いについて説明した
⑦ 器械の片づけ・廃棄物の処理について	終了後の器械の点検（機械のカウント、破損、ネジの紛失など）について、廃棄物については感染性廃棄物として取り扱うことを説明した

テクニック③滅菌手袋の装着④器械・医療材料の準備、機械台の展開⑤器械の使用前点検⑥器械出し業務⑦器械の片づけ・廃棄物の処理についての講義を行った（表1）。

間接介助看護師の役割については、①術前外来・術前訪問②看護計画立案③環境準備・物品準備④患者入室・患者確認・申し送りについて⑤麻酔導入介助⑥体位固定・体温管理・深部静脈血栓予防⑦タイムアウト⑧術中の介助・モニタリング・全身状態の確認⑨麻酔覚醒・抜管介助・退室前の評価（サインアウト）⑩退室時の申し送り⑪術後訪問・看護実践の評価についての講義を行った（表2）。

動画では、器械展開、体位固定とローテーション、手術器材のセッティング、タイムアウト、手術開始～閉創までの、直接介助看護師と間接介助看護師の動きがわかる動画を選択し視聴した。

### 3) 手術室看護実技演習

手術室看護実技演習では、①手術時手洗い②ガウンテクニック③滅菌手袋の装着④手術室器械の説明⑤気管内挿管の介助⑥体位固定について実習室にて実施した。

#### ①手術時手洗い

手術時の手洗いはツーステージ法について学生に説明し、実際に学生が実施した。実習室内にある自動手洗い装置を利用し手術時に行う方法を指導、実施することでなぜこのような方法で手術時は手洗いを行うのか、手洗いを行いどのように清潔を保持するのかについて考えさせた。

#### ②ガウンテクニック

手術時の手洗い後、そのままガウンテクニックを実施した。学生同士でお互いに実施者・介助者のペアとなりガウンテクニックを実施した。ガウンを着る際どこを持つこと

で不潔になるのか、また滅菌ガウンのどの部分が清潔で不潔なのか、学生自身がその理由を考えることで、ガウンテクニックによる、清潔野と不潔野について学ぶことができた。

#### ③滅菌手袋の着用

ガウンテクニック後、引き続き滅菌手袋の着用を行った。手袋の着用はオープン法にて実施した。ガウンテクニックをした後、滅菌手袋をつけ最終的に滅菌ガウンの完全な装着を行った。

#### ④手術室器械の説明

大学にはいくつかの手術器械類（コッヘル（曲、直）ペアン（曲、直）、持針器、鑷子（有鉤・無鉤）、ミクリツツ鉗子など）があり、実際に目で見ると、触れてみることで、器械の違いや、器械の使用法についてを説明した。また手術時の器械の受け渡しについても学生間で実践し、手術時の介助を経験した。また教員による針への糸付けの実施も見学し、直接介助看護師の技術について確認した。

#### ⑤気管内挿管

大学内にあるモデル人形と気管内挿管実施セットを使用し医師役、間接介助看護師役両方を経験した。

まず、気管内挿管の必要物品について、そしてあらかじめどのようにセッティングし準備・確認するのかを説明した。医師役の学生には開口の方法（クロスフィンガー法）から喉頭展開、挿管チューブの挿入、気管挿管の確認（聴診の方法）、挿管チューブの固定を体験した。看護師役の学生には喉頭鏡や挿管チューブの渡し方、挿管困難時の介助、スタイレットの抜去、カフへの空気送入、挿管後の聴診の介助を実施した。

#### ⑥体位固定

表2. 手術室看護師業務についての講義内容（間接介助看護師業務）

講義項目	講義の内容
① 術前外来・術前訪問	病室へ訪問し情報収集を行い手術室看護師も手術室での看護について計画を立て実施すること、手術の前に患者とコミュニケーションをとり手術に対しての不安の軽減や信頼関係を築き手術に臨んでいたことを説明した
② 看護計画立案	手術室看護師も患者情報より看護計画を立て術中の看護援助を行うことを説明した
③ 環境準備・物品準備	患者にあった手術室環境を整え安全に手術が実施されるよう準備を行うことを説明した
④ 患者入室・患者確認・申し送りについて	患者の誤認防止、病棟看護師からの申し送りの内容、患者が入室してからモニター、マンシエットなどの機器の装着方法について説明した
⑤ 麻酔導入介助	麻酔についての講義をふまえ、全身麻酔時に行う気管内挿管の手順と看護師が行う介助についてを写真とともに説明し解説をおこなった
⑥ 体位固定・体温管理・深部静脈血栓予防	それぞれの注意点や観察ポイント、なぜこれらを行うのかの根拠について説明した
⑦ タイムアウト	タイムアウトの方法、内容、根拠を説明した
⑧ 術中の介助・モニタリング・全身状態の確認	術中の患者の状態が安定するように看護師がどんな観察を行い援助している内容についての説明、また間接介助看護師は手術中の患者の代弁者であることを説明した
⑨ 麻酔覚醒・抜管介助・退室前の評価（サインアウト）	麻酔覚醒の方法、抜管の方法の手順と看護師が行う介助についてを写真とともに説明し解説をおこなう。またサインアウト時の確認事項についてを説明した
⑩ 退室時の申し送り	ICU 看護師への申し送り内容を伝え、なぜこの内容を伝達するのかを説明した
⑪ 術後訪問・看護実践の評価	術後訪問により、術中に行った看護について評価すること、また患者にとっては手術を共に乗り越えたものとして安心感を与えるために行っていることを説明した
講義後の理解の確認	理解の確認のために、手術室看護師業務（直接看護師業務・間接看護師業務）の写真により、簡単な間違い探しを、クイズ形式で取り入れ理解について確認した

仰臥位の体位固定、脊髄くも膜下麻酔の体位固定について、実施した。手術体位は非生理的体位であり、患者にとって負担が大きいことを説明した。そして、仰臥位や脊髄くも膜下麻酔時の体位固定時の注意点について、学生同士で工夫し考えさせた。患者役も学生が行い、タオルや枕などで圧迫部位をどのようにしたら軽減できるのかを考え神経障害や褥瘡の防止について実施し、患者にとって手術の体位がどのように負担になってくるのか、後遺症となるのか、また負担のない体位はどのような体位なのかを考えた。

## V. 考察

### 1. 手術室見学代替演習を行った振り返り

2021年度も手術室見学代替演習を実施した。手術室での実習は手術室でないと困難なこともたくさんあり、学内演習での講義だけではイメージをつけることが難しいのではないかと、考えていた。そのため今回は講義内容も直接

介助看護師、間接介助看護師について詳しく説明する時間を取り、昨年度よりも動画による視覚教材を多く取り入れること、また手術室看護師の実際の業務の一部ではあるが、学内で実施できる手術室看護師が行う援助を考え、実際に学生自身が経験することで手術室看護師の特徴が出るよう、またイメージができるよう工夫し、学内演習の内容を考えた。

手術室に関する動画視聴、手術室看護師経験のある教員より動画についての講義・補足説明であるが、学生にとっては手術を受ける患者ということ自体がイメージしにくいのではないかと考えられる。そのため、術前からの準備や、手術室に入るときの患者確認の方法なども一つ一つ説明していく必要がある。そのため手術室への入り方についても実際の場面を視聴することで患者が手術室まで歩いていくということ、複数の看護師や医師とて患者に名乗ってもらい患者確認を行うということ、視覚的に理解することができる。そして手術室に入ってから、手術を受ける患者がどのような流れで経過していくのか、また患者の安

全を守るために常に全身状態の管理が行われており、その中で看護師の行動や声掛けを感じ取ることを、動画により確認できていたのではないかとと思われる。そして手術室看護師経験のある教員からの動画についての補足を、経験を交え説明することで、現場の声に近い説明となったのではないかとと思われる。実際に学生からは動画により手術室へ入室してから退室するまでの流れがわかりやすかったとの意見も聞くことができた。

しかし、多職種連携については、実際の連携場面の動画が見当たらず、講義による説明のみとなってしまった。そのため、具体的な連携方法についてはイメージしにくい部分もあったのではないかとと思われる。

そして直接介助看護師・間接介助看護師の具体的な役割についての講義と動画視聴であるが、それぞれの手術室看護業務について実際の現場の場面とリンクさせながら講義を行った。動画に関しては、新人の手術室看護師が教育の一環として視聴する動画であった。そのため看護業務についてわかりやすく展開されており、具体的な手術室看護業務を視覚により確認できていたのではないかとと思われる。

そして講義後、学生がどこまで理解できたのか、手術室看護業務に関する問題を出し、確認を行った。手術室看護業務の写真を見せ、間違っているところはどこかという質問であったが、学生間で相談して答えてもらったが、ほとんどの問題を回答することができた。手術室看護業務の理解が得られたのではないかとと思われる。

手術室看護実技演習は、2021年度より導入した。2020年度に実施した、講義だけの形態では、手術室の清潔や不潔についてがわからないなどの意見があったため、実技演習を取り入れた。手術時の手洗い、ガウンテクニックや滅菌手袋を装着することで、滅菌ガウンを装着していてもすべてが清潔ではないということ、清潔と不潔な部分がどこになるのか、直接介助看護師だけでなく間接介助看護師も、どのように清潔不潔に対して区別し業務を行っているのかについて考える時間となることができた。また、大学内に保管している手術器械類を実際に見たり触ったりすることができ、手術器械類の種類、用途、医師への渡し方、鋭利なものの取り扱いについての説明を行った。

それにより学生は、実際に手術器械類に触れることで、手術場面のイメージができた、また手術器械類を渡す瞬時の判断ができるようになってみたいなどの意見があった。直接介助看護師業務に対する興味や理解につながったのではないかと考えられる。

気管内挿管の介助・抜管の介助、手術体位固定についてであるが、気管内挿管は医師役も経験してもらったため、医師側にとってどのように介助をすると気管内挿管や抜管が行いやすいかについても、実施をしながら考えることができていた。介助側、介助される側の二つの視点から実

施できたこと、考えられたことが学生にとって学びにもつながったのではないかとと思われる。また体位固定であるが、学生間で協力し、学生たちで考えさせることで、患者の可動域や、良肢位、神経の走行や圧迫について調べ、学生も試行錯誤し実施しており、手術体位による影響や、患者にとっての安楽な体位はどのようなものなのかを考えることができていた。手術体位については術後の状態にも影響することなので、術後への看護介入を考えることにもつながっていく。

このように、机上での講義だけでは経験できないことを学内で経験し、実践することで手術室での看護について学んだ。手術室見学実習は、手術看護を理解しなければ手術前後の看護も行えないため、手術室実習は周術期看護を学ぶ上で欠かせないもの<sup>3)</sup>、看護基礎教育において獲得すべき能力の育成のためには、手術室実習は実施すべき必要な実習であるといえる<sup>3)</sup>とある。周術期看護を学ぶためには、やはり一連の流れを知っておく必要があり、手術場面を体験するという事は、必要不可欠と考えられる。臨地での手術室看護を経験できない学生にとって、少しでも手術室看護について理解してもらい、臨地実習での受け持ち患者が手術を受けるときに、患者が受ける手術のイメージがつかうこと、具体的に考えること、そして成人看護学実習B(急性期)の目的目標の達成のための一助となることが望まれる。

## 2. 今後の課題

手術室見学代替演習を実施したが、手術室看護については学ぶことができるが、やはり、現場での独特な緊張感や緊迫感を感じることも、また多職種連携がどのように行われているのかを実際に見ることは難しい。動画や講義により説明は行いが、やはり限界があると思われる。今後も新型コロナウイルス感染症に対応した実習形態により、手術室への入室ができないようであれば、臨地実習施設への協力を仰ぎ、リモートにより、手術室内の見学の実施、手術室に関わる多職種専門職との意見交換、講話の聴講も検討していきたい。

また、今回の手術室見学代替演習による、学生の学びについて調査を行い、今回の実習が学生にとってどのような学習効果があったのかについても調査し、今後の学修内容の向上に努めていきたい。

## VI. おわりに

現在も新型コロナウイルス感染症が、今後どういった感染状況になっていくのか、いまだ見通しが立たない状況となっている。今後も引き続き、学内での代替演習が必要となることがあると考えられる。学内における代替演習でも、学生の看護実践能力の向上を目指し、取り組んでいくことが必要である。そのためには、教員も常に新しい情報

を把握し、学生に教育を行っていくことも必要だと考えられる。今後も質の高い教育や、教育内容の向上を目指し取り組んでいきたい。

#### 文献

- 1) 佐々木裕子, 帆苺真由美, 小島さやか, 他:看護学生の持つ手術室イメージの手術見学前後から考える周手術期看護教育.手術医学, 40(1), 1-9, 2019.
- 2) 佐久間和幸,佐佐木智絵,井上菜穂美:周術期看護実習の展開の工夫と学生の学びの効果に関する文献レビュー.淑大看栄紀要, Vol.13, 37-43, 2021.
- 3) 帆苺真由美,小林裕子, 清水理恵:看護師養成学校の手術室実習科目責任者が認識する看護基礎教育において手術室実習が必要な理由と課題. 新潟青陵学会誌, 14(1), 2021.
- 4) 宮武一江, 井上弘子, 小林匡美, 磯本暁子:成人看護学実習B(急性期・統合実習)での学内における臨地実習代替演習内容の報告-新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下での取り組み-. 新見公立大学紀要, 第41巻, 165-172, 2020.
- 5) 文部科学省,新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議 報告書 看護系大学における臨地実習の教育の質の維持・向上について

(2021年11月30日アクセス)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/098/gaiyou/mext\\_00002.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/098/gaiyou/mext_00002.html)

## 資料 1. 学内での感染対策、健康チェックシート、体調不良時の対応について

### <全体>

- ・基本的には学内でのオリエンテーション、学内実習、では指定の教室や図書館、閲覧室、担当教員より使用許可のあるゼミ室などを使用し学習を進めていく
- ・図書館、食事などでは3密を避け、学習時は2 m以上間隔を空ける
- ・接触、使用した部屋の換気、消毒
- ・毎日、自宅で健康チェックシートを用いて体調確認
- ・体調不良時は登校せず、学務と実習担当教員へ連絡し指示を受ける
- ・実習要綱に定められている感染症と新型コロナウイルスによる欠席は公休扱いとなりますが、保健管理センターの指示により決定する
- ・実習開始の2週間以上前から感染リスクとなるような行動は控え、行動管理すること

### <実践演習時の感染対策>

#### ○演習開始まで

- ・演習開始前に体調確認を行い、通常の体温より高い場合や体調に変化がある場合は、実習室へ入室前に学務課へ連絡の上、健康管理センターから受けた指示を電話で教員へ報告する

#### ○演習準備

- ・白衣に更衣する時は更衣室を使用するが、一度に7～8人までとし、人との間隔四方1m以上空け、窓を開けた状態とし、会話は避ける
- ・演習場所は事前に担当教員に確認する
- ・実習室の換気 全ての窓と実習室前後のドアを開放する
- ・演習開始前にはハンドソープでの手洗い、含嗽を実施
- ・使用するベッドはベッドとベッドの間隔を十分に空ける(並んでいるベッドの1ベット以上の間隔を開けること)状況により、1ベット空けられない場合は2m以上は間隔を空けること

#### ○演習中

- ・演習中はサージカルマスクを着用し1時間に1回は換気を行う
- ・実際の看護援助はシミュレーター人形または、学生同士で行う(感染対策を十分に実施したうえで行う)
- ・見学する学生は実施している学生から2 m以上離れる、見学している学生間の距離も2 m以上を意識し、私語は慎む
- ・話し合いや演習後の振り返りは対面で行わず、十分な空間がある場所で行い、互いの距離は2 m程度は間隔を開けて行う

#### ○演習終了後

- ・使用したベッドや物品をアルコールシートで清拭
- ・ドアノブをアルコールシートで清拭する
- ・使用したプラスチック手袋を捨てる(ナイロン袋を使用し口を縛って破棄)
- ・ハンドソープでの手洗い、含嗽を実施
- ・演習で出たごみはその日のうちにゴミステーションにもっていく
- ・使用したベッドの周囲は掃除を行う